

拝啓彌々御多祥に被為涉
慶賀の至りに奉存儀

諸國幣大社氣多神社に於ては
御社殿其他非常に荒廢せるを
先年来御本殿系統の御建物は
國庫の補助を得て整備致し處
其外神饌所廻廊社務所等を
明昭和十年昇格二十年を期して
改築致度計劃中に候(其此種の
建物は國庫より全額の補助を
得難く候に付殊に御多端の際
願上並候も神祇道の為特に
御援助相仰き度御依頼申上候

敬具

昭和九年十一月一日

國幣大社氣多神社奉賛會顧問

石川縣知事 館 哲 二

趣意書

國幣大社氣多神社ハ古來氣多大神宮トモ申シ奉リ北陸ノ大社デアリマス 大正四年國幣大社ニ列格ノ旨仰出サレマシテカラ昭和十年ガ丁度第二十年目ニ成リマスノデ此ノ年ヲ祝ヒ氣多神社ガ名實共ニ大社トシテノ莊嚴ヲ整ヘルタメニ記念ノ事業ヲ興スコトニナリマシタ

氣多神社ハ御社殿ノ後方約壹萬坪ノ鬱蒼タル常綠潤葉樹ノ社叢ガアリ御社殿ノ結構モ整ツテ井テ大社トシテノ莊嚴ハ北陸第一、稱マラレテキマスガ附屬ノ建物ガ不備デアリ御門前ノ境內ガ狹ク參道モ見劣リガ致シマスノデ大正四年昇格當時カラノ懸案デアリマシタ神饌所、廻廊等ノ改築神輿殿、齋館、社務所、崇敬者參集所等ノ新築及ビ約四千坪ノ境內擴張並ビニ之ガ整備ヲ致シ猶ホ御維新以來衰エテオリマス祭典ヲ盛ンニシ又廢絶シテ井ル大切ナ神事祭儀ノ復興ヲ致シテ神社ノ尊嚴ヲ保チ以テ 神靈ヲ慰ノ奉リ一面ニハ神祇崇敬ノ 叡慮ニモ副ヒ奉ラウトノ念願デ御座イマスガ此ノ事業ハ敬神ノ念厚キ各位ノ御篤志ニ俟タネバナリマセヌ故ヒロク全國ニ淨財ノ寄附ヲ募集致シマス 此ノ趣旨ヲ御諒承下サレ何卒諸彦ノ篤キ御贊助ヲ懇願致シマス

謹ンデ按ンジマスルニ氣多神社ハ大己貴大神（大國主命トモ申シ奉ル）ガ此ノ日本國ヲ經營シ北陸ノ妖賊ヲ平定シ國土鎮靜ノ大業ヲ成シ給ヒ國家鎮護富強安民ノ爲ニ神代ヨリ御鎮座ノ靈蹤デアリマス コノ故ニ夙ク 崇神天皇ノ御代ニハ社殿ノ御創立ガアリ皇子大人杵命ヲ祭主トシテ厚ク祭祀ヲ司ラセラレマシタコトヲ始ノトシテ御歷代ノ皇室ニ於カセラレテモ各々神寶幣帛ヲ奉リ或ハ神領ヲ寄進シ給フテ崇敬ノ誠ヲ御盡シ遊バサレマシタガ 醍醐天皇ノ御代ニハ正一位ノ神階ヲ奉ラレ延喜ノ制ニハ名神大社ニ列セラレマシタ 其後 後醍醐天皇建武年中ニハ能登國ノ正稅十分ノ一ヲ以テ社殿ヲ御造營ニナリマシタガ其後兵亂打ツヅキ應仁文明ノ亂ヲ經テ神領ハカスメラレ社殿ガ悉ク荒廢ニ歸シマシタ所島山義綱ガ守護職ニ任ゼラレルト 正親町天皇ノ勅許ヲ以テ社殿ヲ改造シ神領ヲ寄セラレマシタ 亦前田利家入國以來神領ヲ寄セテ修理ノ用途ニ充テ天正十二年ニハ諸殿ヲ改造シ慶長十六年奉賽ノタメニ講堂ノ復興ヲ圖ラレマシタ 承應三年ニハ拜殿ノ改造ヲ、延寶八年ニハ本社ヲ始メ攝社、末社、神門、廻廊ニ至ル迄再建シ天明七年ニハ本殿及白山神社ノ改造ヲ遂ゲラレ營繕ハ年々作事奉行ヲシテ修理ヲ怠ラセラレズ、又鷓祭ヲ始メ神幸祭、御贄祭等ノ特殊神事ニ在テハ格別ノ御取計ヲヒアリ代々ソノ崇敬ノ實ヲアゲラレ明治初年迄續ケラレテオリマス 明治四年ニ官國幣社ノ制ガ施カレテ國幣中社ニ列セラレ大正四年秋御即位ノ佳辰ニ國幣大社ノ筆頭ニ昇格ノ仰出ガアリ年々國庫金ノ供進ニ預リマスケレドモ王制維新以來神領ガナクナリ殿堂ノ毀却セラレルモノアリ盛典モ亦廢絶スルノ止ムナキニ至ツテオリマスガ幸ニシテ昇格第二十周年ノ記念事業ヲ遂ゲ大社トシテノ結構ヲ名實共ニ整へ且ハ國家鎮護ノ神祐ヲ願ハントスルモノデアリマス 江湖ノ諸彦希クハ篤キ御贊助アランコトヲ

國幣大社氣多神社奉贊會

委員長

櫻井 錠二

委員

(イロハ順)

東	下	清	三	喜	櫻	阪	齋	國	福	藤	松	松	前	野	野	南	中	中	中	中	鶴	曾	高	高	川	尾	大	太	西
野	村	水	井	多	井	下	藤	府	本	岡	野	波	川	口	村	郷	野	山	田	川	見	根	見	木	村	佐	田	村	
芳	久	太	清	壯	兵	卯	半	種	榮	淨	作	勝	益	駿	嘉	次	勇	博	敬	友	左	增	之	亥	忠	竹	亥	忠	
郎	作	澄	郎	郎	郎	郎	六	德	作	吉	吉	次	次	尾	六	郎	平	道	義	郎	雄	吉	通	郎	郎	猛	齋	二	

國幣大社氣多神社奉贊會

委員長 櫻井錠二

事務所

東京市小石川區金富町二二三

東野芳太郎方

電話小石川六七二二番